

平成29年度 北海道社会教育セミナー 事業報告

○ 事業の概要

- 1 研究テーマ 「地方創生の時代における社会教育行政の在り方」
～「学び」と「活動」の循環を促すための方策について～
- 2 目的 地域づくりや人づくりを推進する生涯学習・社会教育の中核を担う社会教育主事等の専門性を高めるとともに、関係する行政職員（生涯学習関連施設を含む）や社会教育委員等各種委員、社会教育団体関係者等が一堂に会して、地域の生涯学習・社会教育を推進する上での課題と、その解決に向けた方策について理解を図る。
- 3 主催 北海道教育委員会
- 4 後援 北海道社会教育主事会協議会
- 5 期 日 平成29年6月1日（木）～ 2日（金）2日間
- 6 会 場 道民活動センタービル「かでの2・7」（かでのホール他）
- 7 対 象 市町村及び市町村教育委員会職員、各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員等）、社会教育関係団体職員、生涯学習関連施設職員、地域コーディネーター 等
- 8 参加状況 参加者数 264名〔社会教育関係職員224名 社会教育関係職員以外40名（定員200名）〕

ブロック 管内	道 央			道 南				道 北			道 東				道外
	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	林-ㇿ	十勝	釧路	根室	
参加数	25	74	15	9	10	11	10	30	7	9	24	20	12	5	3
ブロック 人 数	114			40				46			61				3
合計人数	264														

9 プログラム

	9:30	10:00	10:10	10:30	12:00	13:15	15:00	17:00
1日目 6月1日 (木)	受付	開会	説明	基調講演	昼食 休憩	パネルディス カッション	研究協議 社会教育基礎講座	
2日目 6月2日 (金)	研究協議 社会教育基礎講座			全体会	昼食 休憩	講 演	閉会	
	9:30	11:30			14:45			

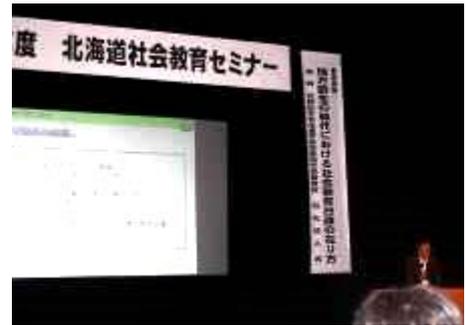


(1) 説明「北海道における生涯学習・社会教育の推進のために」

【説明】道立生涯学習推進センター主査 尾山清龍

【内容】

今後2か年計画で取り組む研究テーマについて、昨年度までの研究テーマを振り返り、そこから得られた成果と今年度の方向性について共有した。本セミナーの視点として、「学び」と「活動」をつなげる方策について研修を進めていくことを説明した。



(2) 基調講義「地方創生の時代における社会教育行政の在り方」

【講師】文部科学省生涯学習政策局社会教育官 石丸成人氏

【内容】

地方創生に向けた国の動きや施策等について、平成29年3月に学びを通じた地域づくりに関する調査研究協力者会議から出された論点整理を中心に最新の情報提供をいただくとともに、社会教育に携わる関係者が、社会教育を取り巻く環境の変化の中で、どのような役割と機能を果たしていくべきか等についてお話しいただいた。



(3) パネルディスカッション「地域における『学び』と『活動』のつながりについて」

【コーディネーター】北海道大学大学院教育学研究院教授 宮崎隆志氏

【パネリスト】うらほろスタイル推進地域協議会子どもの思い実現ワークショップ座長・浦幌町社会教育委員

高室智全氏

小樽市教育支援活動推進事業運営委員会コーディネーター

中川めぐみ氏

芦別市立図書館管理係長（司書）

藤田伊津子氏

【内容】

パネリストが地域で実践している活動について、その「活動」と「学び」がどのようにつながり継続しているか、どのような意図をもって活動と学びをつなぎ、循環させているか等を発表いただき、「学び」と「活動」のつながりの実際について理解を深めた。



(4) 研究協議「『学び』と『活動』をつなげる方策について」

分科会		会場	講師・ファシリテーター
第1分科会	社会教育主事、生涯学習・社会教育行政担当者	820 研修室	【講師】北海道大学大学院教育学研究院教授 宮崎隆志氏 【ファシリテーター】釧路教育局社会教育指導班主査 柴田快憲
第2分科会	社会教育委員、生涯学習審議会委員等	1030 会議室	【ファシリテーター】オホーツク教育局社会教育指導班主査 風間直樹
第3分科会	生涯学習・社会教育施設職員等	1060 会議室	【ファシリテーター】ネイパル砂川社会教育主事 青山智恵
第4分科会	地域コーディネーター等	710 会議室	【ファシリテーター】留萌教育局社会教育指導班主査 英洋一
第5分科会	図書館司書、図書館職員等	1070 会議室	【ファシリテーター】空知教育局社会教育指導班主査 久末考勇

【内 容】

社会教育に関わる様々な立場による5つの分科会を設け、それぞれの視点から「学び」と「活動」をつなぐ具体的方策について協議した。第1分科会では、宮崎講師による講義「学びから活動へ—社会教育主事の新たな役割」からスタートし、社会教育主事の視点から「活動」と「学び」の整理を行い、それらをつなぐためにどのような働きかけを行うか等の具体的方策について協議した。また、他の分科会においてもそれぞれの立場、視点から、「学び」と「活動」をつなぐ具体的方策について協議した。



(5) 社会教育基礎講座

【ファシリテーター】

生涯学習推進センター主査 為 広 千 里

【内 容】

生涯学習・社会教育に関する基本的事項や今日的な課題、全国的な社会教育の動向等について学ぶとともに、「地域づくり、人づくり」につながる事業の企画・立案に向けて、参加者の行っている地域や市町村、職場や団体における取組について交流した。



(6) 全体会

【助言者】 東京大学大学院教育学研究科教授 牧 野 篤 氏

【内 容】

各分科会を担当したファシリテーターからそれぞれの研究協議で討議された内容や様子について説明した。「学び」と「活動」をつなぐ具体的な方策について、どのようなアイデアが見出せたのか、分科会で出されたキーワード等を紹介し、情報の共有を図った。また、牧野氏から地域住民との関係を深めていくことで住民の当事者性を高め、「学び」と「活動」の循環を促すことが重要であるとして助言をいただいた。



(7) 講演「『学び』の専門職を考える—住民の主体的な学びを促すコーディネーター」

【講 師】 東京大学大学院教育学研究科教授 牧 野 篤 氏

【内 容】

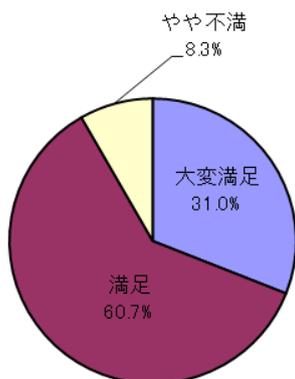
価値観の大きな転換期にある現在の日本において、これからの「社会」の大きなテーマとして「社会的であること」を挙げ、個人が地域社会に目を向け自分の在り方を考えていく必要があると述べられた。また、社会教育行政の関係者は、住民がみんなでまちをつくる取組に関わり、住民の「学び」の組織化や住民との対話をとおして行政課題を練り上げ、「学び」の専門職として活躍する必要があること等についてお話をいただいた。



○ 事業の満足度

1 セミナー全体への満足度

回答者数 149 名 (回収率 56.4%)

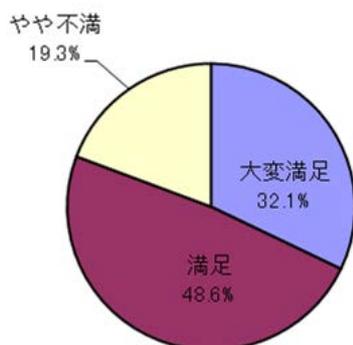


満足度	満足度			
	大変満足・満足			
	91.7%			
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満
	31.0%	60.7%	8.3%	0.0%

【参加者の主な声】 <セミナー全体を通して>

- 社会教育主事以外の方の考えや実践事例を聞くことができた。
- 各地の現状、情報共有の場として、有意義であった。
- 社会教育主事のこれからのやるべきことのヒントを確認できた。
- 限られた人材、時間、予算でいかに住民に満足してもらうか、何のために社会教育をしなければならないのかについて、あらためて考える機会となった。
- 教育行政を地域の関わりについて、多角的な視点から学ぶことができた。
- 立場が少し違う研修であったが、一緒に働く人の仕組みが良くわかって良かった。
- 社会教育主事というのは専門職だということを初めて知った。社会教育の分野で地域を活性化させたり、盛り上げたり出来るということに大変感動した。
- PTA関係者やボランティア団体などの人にも聞いてもらえたら良いのではと思う。
- テーマが大きすぎる。ここ2～3年同じようなテーマ。
- テーマ説明がわかりにくいため、全日程の軸が定まらなかった。
- 講演よりも交流することを主体としたセミナーだともっと良かった。
- 分科会設定の意味がよくわからない。
- 青少年や高齢者や世代間交流など、もう少し細かな分科会としての設定が必要。
- 全体的に、昨年度と比べて不親切。しおりに開催要項、タイムテーブルが無い。
- 今回のセミナーに社会教育委員や、特に司書はそぐわないのではないかと。参加は構わないが、分科会にしたのは非常にもったいない。社会教育関係者と社会教育委員の交流をした方が良かった。
- セミナーのやり方がマンネリしている部分もあると思う。
- 毎回感じるが、パネルディスカッションは必要なのか？分科会に持っていくことで各市町村の方も聞きたいことを聞けると思う。分科会にワークショップを入れ長くするか、テーマについて時間をとってほしいと思う。
- これからCSなども社会教育に入ってくると思うので、6月生涯学習研究会など、もっと学校教育現場も参加しやすくし、学社融合も視野に入れてはどうか。

2 (1) 基調講義

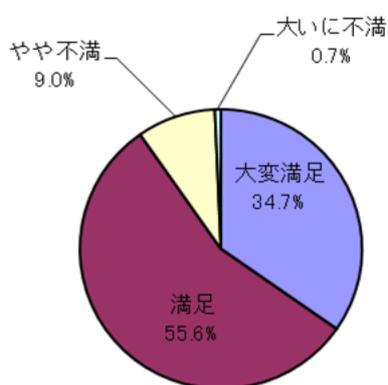


満足度	満足度			
	大変満足・満足			
	79.6%			
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満
	31.7%	47.9%	19.0%	1.4%

【参加者の主な声】 <基調講義>

- 現代における背景・問題を把握することができた。
- 社会教育の現状、社会教育関係職員の現状、社会教育を取り巻く環境の変化について知ることができた。
- 社会教育主事の在り方を考えさせられる内容だった。社会教育主事の必要性が各自治体で低くなっていると感じた。
- 具体的に今後のテーマについての考え方が示されていた。
- セミナーの研究テーマに沿った内容だった。
- 数値やデータから客観的に分析し、判断をする必要があることを改めて考えさせられた。
- 社会教育のニーズがどういった根拠で変化しているのかを体系的に把握することができた。
- 今後の課題や解決のヒントが見えた。
- 発表資料を手元に用意してもらえれば助かった。
- 具体的な話で良かったが、最後まで聞けなかったのが残念。
- もう少し、国の現状を知りたかった。
- 数値的な現状報告で終了してしまった。もっと深くつっこんだ具体的な話や今後のことについて聞きたかった。

(2) パネルディスカッション

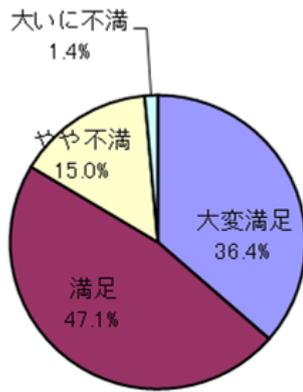


満足度	大変満足・満足 90.3%			
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満
	34.7%	55.6%	9.0%	0.7%

【参加者の主な声】 <パネルディスカッション>

- 民間、NPOなど地域の方の事例がとても新鮮だった。
- 各自治体の特色ある活動を知ることができて、非常に満足。
- 大人の姿が子どもに影響を与える視点は考えたこともなかった。
- 地域・行政の視点からのディスカッションとなり、つながりがイメージできた。
- 地域力、ボランティアの継続した運営について学ぶことができた。
- 様々な立場の人の事例を通して、「学び」と「活動」のつながりには、他者との関係性が重要であることがわかった。
- 高室氏の報告からは「学びと活動の基盤」を「子どもの思い」とした活動であることが理解できた。この「学びと活動の基盤」の形成が一番難しいと感じた。
- 1つの活動から課題をみつけて更に活動が発展することは素晴らしいと思った。
- 実際に成功している事例が聞けてとても参考になった。
- 事業を継続・拡大していく上で必要な考え方や事業の進め方を学ぶことができた。
- 他市町村の具体的な取組の内容やその成果や課題について深く知ることができた。
- 地域を変えるには、まず人から変えていかなければならないということを知ることができた。
- 事例発表にとどまり、そこからどう学び、活動のつながりにつなげるかの議論がもう少しあっても良かった。
- パネリストの発表をもう少しじっくりと聞けると良いと感じた。
- もう少し議論してほしかった。
- 1人15分の説明が長すぎる。

(3) 研究協議

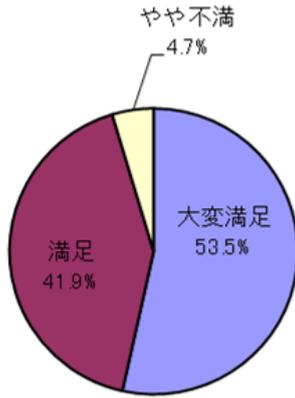


満足度	大変満足・満足 83.5%			
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満
	36.4%	47.1%	15.0%	1.4%

【参加者の主な声】 <研究協議>

- 発表を通じて自治体に持ち帰れそうな解決策が見つかった。
- 学びと活動をつなぐ具体的な方策を検討することは非常に重要なことで、学びと活動の連鎖が地域を育てるということに気づいた。
- 楽しさ・気軽さをテーマに事業を展開していく重要性とつながりをいかに小さなところでつくるかを考えさせられた。
- 方策を考える過程や、単なる方策ではなく具体的な方策ということで、理解が深まった。
- 学びと活動の循環について実際にワークショップができて良かった。
- 丁寧な説明と分かりやすいファシリテートで良かった。
- 地域活動のための面白いアイデアを聞いた。自分では思いつかないようなことも多く、勉強になった。
- グループ内で意見交換することで、色々な切り口で考える大切さを学んだ。ファシリテーターの進行もとても良かった。
- いかに学校や先生と共働できるか、学校に入り込んでいくかを考えることができた。
- 地域のコーディネーターとして活動している方々の取組、実践、課題等を共有することができ、今後の参考になった。
- 学びと主体的な活動をつなぎ循環させる具体的な方策について、交流を通して考えることで、やることが見えてきたように思う。
- 社会教育事業を立ち上げる上で必要な基礎知識と考え方を学ぶことができた。(基礎講座)
- 単発ではなく、地域のために貢献できる人を育てる行事を行っていかねばならないと思った。(基礎講座)
- 今まで社会教育主事について学ぶ場がなかったので、良い機会になった。
- 若い人がたくさんいて、頑張っている姿を見て刺激を受けた。
- ワークショップがマンネリ化がみ。手法や視点を変えた新たな分科会を求める。自町に持って帰るのは、内容ではなく手法や皆と話したこと。
- 模造紙と付箋から、一度離れたやり方や新しいアイデアは無いのかと思う。
- 全体会は必要なのかと感じた。目的別だったので、1つの分科会の時間をもっと長くした方が有意義だと感じた。
- 研究協議の時間が少々足りなく、もう少し長ければ更に深い協議ができると感じた。
- よくわからなかった。グループの皆もなかなか理解できず、進まなかった。
- 形にすることにとらわれ、自由な討議ができなかったように思う。
- 宮崎先生の講義を受け、その後の時間を使って内容を深める形にしてほしかった。付箋を使う手法は、あちこちで多用されるが違う深め方も取り入れてほしい。
- さまざまな立場から話をするのができ、勉強になった。

(4) 講演

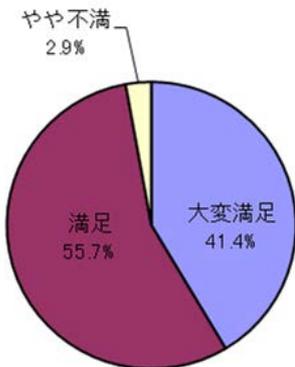


満足度	満足度			
	大変満足・満足 93.9%			
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満
	52.7%	41.2%	4.6%	1.5%

【参加者の主な声】 <講演>

- 地域社会に目を向け、人と人がつながることが持続可能なまちづくりの基本である、ということをしかりと再認識できた。
- 田舎を求める若年層を定住させる地域づくりの用例が非常に印象に残った。
- 具体的な方策、今後についてのアイデアなどにつながる講演だった。
- 住民の主体的な学びを促すコーディネーターの役割の重要性、行政の「学び」化を実現する専門職の必要性について学んだ。
- 学びを進めるために、そして活動をつなげていくには、想像力と共感力が必要だと思った。
- 「関係をつくる」ことの重要性を新たな視点で認識することができた。
- もっと身近な課題をテーマにしてほしい。
- 時間配分を考えてほしい。後半の話をもっと聞きたかった。

3 セミナーの運営



満足度	満足度			
	大変満足・満足 97.1%			
	大変満足	満足	やや不満	大いに不満
	41.4%	55.7%	2.9%	0.0%

【参加者の主な声】 <セミナーの運営>

- 社会教育職員のみならず、社会教育委員、地域コーディネーターといった多様な領域の人たち同士がつながる場になっていたと感じた。
- 講師の議論する場を増やしてほしい。(パネルディスカッション形式で。)
- パワーポイント使用でも、会場が暗くてメモが取りづらかった。もっと明るくしてほしい。
- 時間をきちんと守ってほしい。(帰りの交通機関で支障が出る。)